

生駒市市政顧問が従事した職務の遂行に係る情報

議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・能登半島被災地支援派遣職員との意見交換 ・図書館視察 ・DX
日 時	令和6年5月17日(金) 10:00 ~ 17:00
場 所	特別会議室ほか
出席者	<p>市政顧問 市長 経営企画部長、企画政策課企画官 (能登半島被災地支援派遣職員との意見交換)</p> <p>被災地派遣職員6名、総務部参事、防災安全課企画官(防災担当)、消防署副署長 (図書館) 教育長、生涯学習部長、図書館長 (DX) CDO、デジタルイノベーション推進課長、同課課長補佐、同課職員</p>
主な意見 (概要)	<p>●能登半島被災地支援派遣職員との意見交換(10:00-12:00)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場力を最大化する、現場で判断できるようにするには何をしておいたらいいのかは、一度市で議論してみると良い。 ・震災時に、これは動かしてはいけない軸だけ決めておいたら、臨機応変に動きやすいと思う。 ・既にしっかりとマニュアルなど整備されていると思うが、皆さんが行った現地の感覚と、どこかずれがないかというのを一度見直しされたら良い。 ・震災が発生した際に全国から支援に来て下さる方の宿泊問題に対して、民間と提携する場合、キッチンカーならば免許交付が県単位のため、千葉市のように事前に広域で提携しておくことも有効。 ・ボランティアの呼びかけ方も、こういうものが欲しいということを段階に応じて発信できるようにしておく。災害復旧のフェーズに応じた支援、優先順位をつくっておくと良い。 ・例えば、ボランティア受入を所管する社会福祉協議会の人たちが災害時に必要な能力が高まるように、日常の活動の中で市民連携の仕組みをつくっておく。そのことで日常にもメリットがあるし、いざというときにもメリットが起こる、というようなプロジェクトや施策が生駒市でたくさん生まれても良い。また、ファシリ

ティの問題など今後新しい施策を打つときに、この施策は災害のときにはどうプラスに働くかということを常に考えてみることも大切。

●図書館視察(13:00-14:30)

- ・図書の利用回数等のデータを取組に活用できないか。
- ・生駒市史編さん便り「いこま歴史タイムス」は、市の公式LINEでも見ることができるとよい。
- ・今は使われていない資材(レーザーディスク、CDなど)を活用できる取組を市民にも考えてもらい、それを支援してはどうか。
- ・図書館所蔵の貴重書は、一般の図書館利用者よりも、海外の美術関係者や研究者が喜ばれるようなものもある。

●DX(15:00-17:00)

- ・「D(デジタル)」のスキルよりも「X(変革)」マインドを持つ人材が大切だというのは理解できるが、「DX 人材」といっても幅があるので、生駒市として何を強化したいのか、DX 人材にどんなスキルや役割を求めるのかといったことを明らかにすることが大切。
- ・デジタル社会が進展する中、DX の関する知識やスキルは、今後は管理職としても大切な要件になってくる。
- ・育成方法としては、例えば DX に関連のプロジェクトを設置し、プロジェクトへの参画を通じて育成を図ることも考えられる。
- ・DX 人材のやりがいのためにも、「変革」の必要性や重要性に対する周囲の職員の理解や協力が大切。また、業務の変革に際しては「職員の業務負荷が軽減される」「市民が便利になる」など、効果をわかりやすく関係職員に伝えることも必要だと考える。人材育成と合わせて、このような職場環境の整備も図っていくことが求められるのではないか。